

## 【女川町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

児童生徒が情報を主体的に捉えながら、何が重要かを考え、他者と協働し、新たな価値を創造するために必要な情報活用能力を育成します。そのために1人1台端末をはじめとする ICT 環境を積極的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。

「個別最適な学び」の実現において、児童生徒は、1人1台端末を通じて、個々の理解度や学習ペースに合わせた、児童生徒の実態に応じた学習計画に基づいて学びを進めるものとします。さらに、学習データを活用し、生成AI等により、リアルタイムにフィードバックを受けたり、学習におけるアドバイスを受けたりすることで、自らの可能性を最大限に引き出し、学習に対して高いモチベーションを維持していくことを目指します。

「協働的な学び」の実現において、児童生徒が、他の児童生徒と一緒に課題解決に取り組む機会を増やしていきます。それにより、多くの他者の考えに触れ、自己の考えを広げ深めることができるようになります。また、グループワーク等を通じて、多様な他者と協働し現実社会で必要とされる非認知能力を身に付けることを目指します。

#### 2 GIGA 第1期の総括

女川町では、GIGA スクール構想が打ち出される前から、ICT 機器の整備に力を入れてきました。タブレット端末については、平成25年度に児童生徒用の端末整備を始め、その後も、順次児童生徒用及び教員用の端末を整備しました。また、ICT 教育支援員と学校ネットワーク管理員を配置することで、ICT 機器を活用した教育活動の充実を図るとともに、ネットワークに関するトラブル対応も迅速に行うことができています。

児童生徒の学習内容の理解を促すために、指導者用デジタル教科書と AI 型学習教材を導入し、効果的な活用を進めるために、小中合同で研修会にも取り組んできました。ICT 機器を文房具のように扱い、日常的に使用することが当たり前になってきています。しかし、校務系と学習系のネットワークが分離されているため、不便さを感じるようになってきていることも事実としてあります。それにより、ICT 機器の使用に不慣れな教職員の使用頻度の低下が問題となっています。校務支援システムや AI 型学習教材など、有効的なツールは充実してきており、ネットワーク環境の改善や使用方法の周知徹底を図ることで、より一層の活用ができるものと考えます。

#### 3 1人1台端末の利活用方策

教員が ICT 活用の目的を理解し、ICT 活用指導力を向上できるよう、ICT 活用に関する研修を計画的・定期的を実施します。ICT 機器に造詣が深く、教育内容や教材の知識も有する ICT 教育支

援員等を今後も継続的に配置し、ICT 活用の各種支援や授業実践事例等の蓄積・情報共有を行います。

タブレット端末の家庭への持ち帰りを日常化し、学習者用デジタル教科書・AI 型学習教材を校内及び家庭学習で活用します。また、課題解決に向けて論理的に思考する力を育成するため、プログラミング教材を活用します。利活用の推進にあたっては、子どもたち1人1人が情報のもつ力を正しく理解し、適切に判断して行動できる力をもつことが必要であると考えます。

これらを実現するためにも、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することが重要であると考えます。